

向井潤吉の素描

線と淡彩の魅力



《不詳(農夫)》制作年代不詳

1995年1月4日[水]—3月26日[日]

開館時間—午前10時—午後6時(入館は5時30分まで)
休館日—毎週月曜日(休日にあたる時は翌日)

観覧料—一般200円(160円) 大高生150円(120円) 中小生100円(80円)
()内は20名以上の団体料金 65歳以上の方160円

世田谷美術館分館

向井潤吉アトリエ館

〒154 東京都世田谷区弦巻2-5-1 TEL.03-5450-9581



《不詳》制作年代不詳

《不詳》制作年代不詳



このたび向井潤吉アトリエ館では、『向井潤吉の素描一線と淡彩の魅力―』展を開催いたします。

これまで、向井潤吉先生のライフワークである“民家作品”，とりわけ油彩による作品を紹介する展覧会を主として開催してまいりましたが、このたびの展覧会では、それらの作品のエキストとも言える素描作品の数々をご紹介します。

向井潤吉先生の“民家作品”は、ある時には見る人の心に懐郷の念と言えるような心情を抱かせる不思議な魅力を湛えつつ、多くの人々の心を魅了してきました。しかし、これはたんに画面の中にある“民家”というモチーフだけが、そうした感情を喚起するというだけではなく、繊細な筆致と、複雑で微妙な色彩によって描かれた民家をとりまく自然景観が、そこに降り注ぐ光りや、流れる風の匂いを見る人に感じさせ、民家と渾然一体となって、人それぞれに独特の個人的イメージを喚起しているためなのでしょう。

向井潤吉先生が、民家作品を制作する上でもっとも重要に考え、そして実践されていたことは、その制作場所となる土地に足を運び、そして丹念に素描を繰り返すことを通じて、つぶさにその土地の風土を肌身に感じるということです。

したがって、その多くの素描は、水彩画という別個のものとして描かれているのではなく、と言って単なる下書き的なものにとどまるものでもありません。厳しく、そして洗練された線によって、むしろ本画(油彩画)よりも、鋭く対象を捉えた際立った写実性がそこには感じられます。そして、淡いながらも誇張のない色彩が、作品を一層引き立たせているのです。

また先の大戦以降、日本の画壇が混沌とした様相を見せ続けてきた写実表現という範疇で、向井潤吉先生がいかにリアリズムを追求し、真摯な創作姿勢を買われてきたかが、油彩作品はもとより、このたび展示する素描作品の多くを通じて確然と感じられます。

本展は線による構成を基本とした素描という表現を通じて、さらに向井潤吉先生の画境の深さをご紹介します。



《晩春田麦俣》1966年



《玉山村船田にて》制作年代不詳



《浅春の村(山形県上郷にて)》制作年代不詳



《民家》制作年代不詳



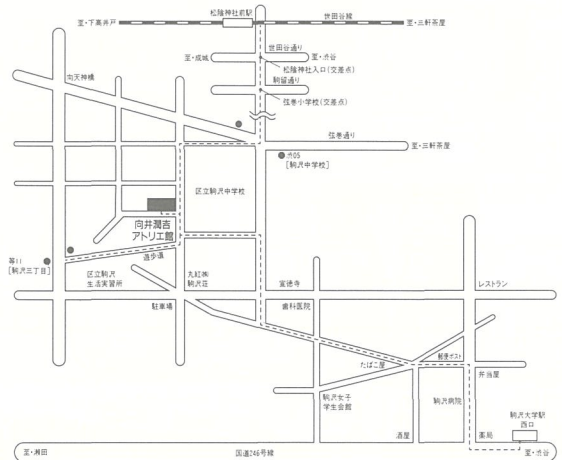
《不詳(農婦)》制作年代不詳



《不詳》制作年代不詳

●最寄り交通機関のご案内

- 東急新玉川線 [駒沢大学] 駅西口 下車/徒歩10分
- 東急世田谷線 [松陰神社前] 駅 下車/徒歩17分
- 東急バス (渋05) 渋谷～弦巻営業所 [駒沢中学校] 停留所下車/徒歩3分
- 東急バス (等11) 祖師谷折返所～等々力 [駒沢三丁目] 停留所下車/徒歩3分
- 東急バス (渋11) 渋谷～田園調布 [駒沢大学駅前] 停留所下車/徒歩10分
- 東急バス (渋13) 渋谷～砧本村 [駒沢大学駅前] 停留所下車/徒歩10分



世田谷美術館館
向井潤吉アトリエ館
〒154 東京都世田谷区弦巻2-5-1
TEL.03-5450-9581